

1. 7 大鹿村中央構造線博物館・なかひら農場の見学（社会分野）

(1) 研究開発の概要

平成25年度地歴・公民科SSH講座の名称で1、2年生希望者対象に大鹿村中央構造線博物館・農業法人なかひら農場の見学会を実施した。

(2) 研究開発の経緯

平成20年度は第1次産業（岐阜県畜産研究所）でSSH講座を実施した。21年度は第2次産業（へきなんたんトピア・新日本製鐵名古屋製鐵所）で見学場所を選定した。22年度は再び第1次産業（中央構造線博物館・なかひら農場）で実施した。23年度は歴史的建造物（熊川宿・藤樹書院）で実施した。本年度も過去5回の講座の中で最も好評であった講座（中央構造線博物館・なかひら農場）を実施することとなった。

(3) 研究開発の内容

ア 仮説（ねらい、目標）

- ・中央構造線博物館の見学を通して、地震国日本の過去・現在・未来を考える契機が養成される。さらに自然地理学に興味を抱かせる。
- ・農業法人なかひら農場の見学を通して、日本農業の現状とりんご農家の苦労を理解し、日本の農業の経営上の問題点を考えさせる。
- ・見学を通して、将来の研究・進路選択の一助となれば良い。

イ 研究の内容・方法

対象生徒 1・2年生の希望者 25名 本校職員 4名
 実施日程 10月20日（日）に実施
 実施場所 大鹿村中央構造線博物館
 （長野県下伊那郡大鹿村大河原988）
 農業法人なかひら農場
 （長野県下伊那郡松川町大島3251）



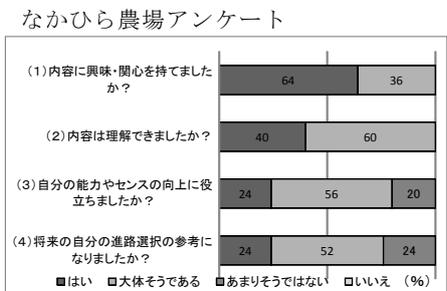
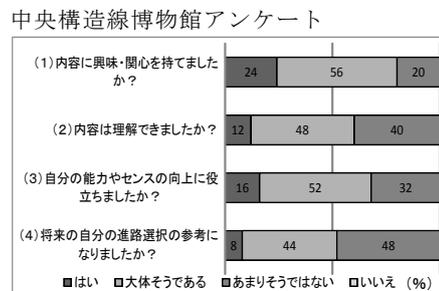
施設見学 中央構造線博物館

実施内容

- ・博物館にて学芸員河本和朗氏による概要説明・博物館施設見学
- ・農場にて農場社長中平孝雄氏による概要説明・農園・ジュース工場見学

(4) 検証（成果と反省）

中央構造線博物館の理解は40%の生徒ができなかった。進路選択の参考については54%の生徒が否定的反応を示した。なかひら農場について内容理解は100%。64%の生徒が進路選択の参考になったと答えた。りんご農家の生の声に好奇心・興味が喚起されたと思われる。



生徒の感想から

- ・中学校で学習したことをより深く学べた。ただの岩石に見えても2億年前から少しずつ積み重ねられている岩石もあってすごいと思った。模型をつかった説明がとても分かりやすかった
- ・農業が企業化することがTPP対策になるとは聞いていたが実際にそういう企業の当時の話を直接聞くのは非常に興味深かった。

中央構造線博物館の見学を通じて地震大国日本の現状の理解向上はほぼ達成できた。文系志望の生徒参加が多かったため、将来の進路選択の参考にはならなかった。

農場の見学を通じてりんご農家の苦労の理解向上は達成できた。栽培の苦労より、流通の苦労が大きいことに対する反応は非常に大きかった。TPPに興味を持った生徒も多数生まれ、社会問題に対する問題意識向上にも繋がった。